

基礎 連載コラム 環境と自分 | ②

ある町に移り住もうとやってきた若者が、公園で憩う老人に尋ねた。
 「この町は住みよい町ですか？」
 老人は反対に質問した。
 「お前さんの町はどうだった？」
 「気に入らない人ばかりでだから移りたいんです。」
 「この町も同じだよ。」
 若者は落胆して去っていった。
 しばらくして別の若者がやってきて同じことを尋ねた。
 老人は同じように問い返すと若者は
 「ええ親切な人ばかりで暮らしやすいんですが、訳あって引越したいんです。」
 老人は答えた「この町も同じだよ。いい人が多くて住みよい町だよ。」
 お互い日常生活において周りの人は自分を映す鏡で
 自分の言動、態度がそのまま自分にはね返ってくる。
 だから周りの人がいいも悪いもまずは自分次第
 肝心なのはお前さんの態度だよ——と老人が教えている。
 環境がよい悪いというが
 環境とはある程度自分の反映である
 環境と自分とは断続しておらず
 相互に影響し合っているからである。
 環境が悪い場合は自分に原因があることが多い
 自分の変化は想像以上に環境を変える。



Voice of Staff 編集後記

本格的な夏を前に、創刊2号の発行を迎えることができました。ご一読いただいた感想は、いかがでしたでしょうか。

今回、私たちは、当学園の門をくぐった若い人々の輝きあふれる姿を、さまざまな角度からご紹介することができればと考えました。特に、この4月には、新たに出会った生徒と学生たちの躍動感、みずみずしい感性に触れる

ことができ、感銘を受けたばかりです。また、教育の現場に立つ者として、それぞれが個性を発揮し、未来へ向って羽ばたこうとする瞬間の、一つひとつのシーンに立ち会うことができる幸せを感じています。

これからも、そのような若い人たちのあふれる力を、誌面でお伝えしていきたいと決意を新たにしています。



◆ エッセイ 個性——人としての持ち味

戦

後の日本の教育は個性の重視を強調する余り生命線である社会との関わりがなおざりにされてきた。感謝や報恩の気持ち、他者優先という考えなど望むべきもない人間が増えていく。まさに自己中心的個人主義の横行である。

個性をはき違えると単なる個人のががままや身勝手な言動を是認してしまふことになる。他人と異なるうとする個性、集団の中で自立とうとする個性は自負心に過ぎない。自負は利己心に直結し公的な領域への崩壊につながっていく。

基礎基本なくして個性はない。個性も又制限と束縛の中で完成される。訓練なき個性、磨かざる個性は「野生」に他ならない。

強制と禁止を排し個性を尊重し過ぎた結果個性ある人間はかえって少なくなった。個性は広く社会に認められるものでなければならぬ。一般に特色というのは人並みなこと、当然のことをした上で出てくるものであり平均的なこともしないで、最小限の義務も果たさないので、特色だけを出そうとするのは愚か

なることであり滑稽でしかない。

人間としてのベースが貧弱だったら個性も又お粗末である。表面に表れた違いだけが決して個性ではない。おとなしくてもいい、目立たなくてもいい、自分の内部に自分なりのものを見方善悪や美醜に対する判断の仕方、生きていく原理ができているものが個性である。それ故頑なで扱いにくく個性には必ずつらさが伴う。

養老孟司は「バカセー」バカの壁の中で「若い人にあなたの個性を伸ばせなんて馬鹿なことは言わない方がいい。それよりも親の気持ちや友達の気持ちがわかるか、ホームレスの気持ちがわかるか」というような問いかけをしていく方が余程まともな教育ではないか。

他人のことがわからなくて生きられるわけがない。社会というのは共通性の上に成り立っているのだから人がいろんなことをして自分だけが違うことをして通るわけがない」ということである。

(高翔中学 高等学校長 川上清司)

皆様のオリジナルエッセイの投稿を募集しています

オリジナルエッセイであれば、特にテーマや特定のジャンルまた、応募資格も問いません。本文800字前後にてお願いいたします。(随時募集) 応募の際には必ず氏名、住所、電話番号を明記してください。作品は本誌上への掲載をもって発表と換えさせていただきます。

● 作品の宛先・お問い合わせ

尚綱学園事務局 広報室宛 〒862-8678 熊本県熊本市九品寺2丁目6番78号
 メールでの応募も受け付けております ◆[メールアドレス] kohou@shokei-gakuen.ac.jp